

令和 3 年度 さいたまま市立和土小学校 自己評価書

校長 辻 美 由 紀 印

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) アクティブ・ラーニング型授業への授業改善や ICT の活用により「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業づくりを目指す。－児童の学力・学習状況、教員の授業にかかわる評価
- (2) スマイルタイム(児童との個別面談)等により児童理解を深めるとともに教職員の共通理解による生徒指導、教育相談を組織的に実施する。－いじめ防止等、児童の安全・安心、生徒指導、教育相談
- (3) 保健教育、安全教育、食育等の取組を充実するとともに、学校安全ネットワーク連絡会議等との連携により、安全・安心な学校づくりを目指す。－健康教育、安全教育、地域と連携した学校安全
- (4) 教師のやりがいと業務の効率化を考え、校内業務改善プロジェクトを推進する。

－学校における働き方改革

2 評価結果について ※文中の数値は「とても思う」「そう思う」を合わせた回答率

- (1) 授業での ICT の活用については、教職員アンケートの「ICT 機器の活用」の項目について「十分達成」は 70%(肯定的回答は 100%)となっている。児童アンケートにおいても、同項目は、(97%→95%)と前年度より少しポイントは下がっているが、肯定的回答が多い。また、児童アンケート「自分の考えを発表」について、(68%→71%)という点からもアクティブ・ラーニング型授業の実践の手応えを感じる。
- (2) 保護者アンケートで「心の教育の充実(99%→88%)」、児童アンケートで「先生がほめてくれる(93%→91%)」とコロナ禍において十分な関わりが出来なかったことが影響していると捉えた。一方、児童アンケート「相談できる友達(93%→93%)」と維持していることや、教職員アンケートの生徒指導に関する項目では、共通理解での対応等 100%の回答を得た。
- (3) 保護者アンケートで「安全や健康に配慮(97%→93%)」と高い評価ではあるが、4 割の減となっており、学校の感染症対策等に不安を感じる保護者もいることが伺える。教職員アンケートでは、2 学期の「にぎなげキャンペーン」の実施、「すくすくタイム」等できることは、工夫して実施できている、という認識の高さが伺えた。登校している児童は、よく外遊びをしているが、コロナ禍の影響か、保護者アンケート「子どもの外遊び(65%→45%)」と大きくポイントを下げている、児童の体力低下が懸念される。
- (4) 教職員アンケート「業務改善(100%→83%)」と、高い割合で在校時間等を意識した働き方の改善が図られている。在校時間については、上限の 45 時間以内の教職員の割合が、4 月の 64.3%から 12 月には 100%となった。校内業務改善プロジェクトについても、2 ヶ月に 1 回アイデアを募り、できることは即対応というサイクルが定着してきている。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 新たな「STEAMS TIME」が始まるなど、探究的な学習が一層求められる中、ICT 活用や児童の主体的な取組の成果を大切にしながら、教科横断的なカリキュラムを充実させる。
- (2) 生徒指導、教育相談体制の維持・強化と保護者・地域と連携した「和土小ハローウィーク(あいさつ運動)」の取組等により、豊かなコミュニケーション、心のふれあいを充実する。
- (3) 最新の情報に注視するとともに、本校の実態を踏まえた感染症対策を徹底するとともに、施設・設備の定期点検を生かし、計画的に整備を進める。
- (4) 引き続き、教職員からの声を生かした業務改善に取り組む。